

タラの芽と鹿の角

春、若芽のふくときに、鹿が山にあるタラの芽を食べると、角が落ちると言います。山などで、ときおり拾うことのあるのは、そうしたとき落ちたのだと言います（タラの芽は春、蕨と同じ頃出るもので、一面トゲのある棒のような茎から房々とした芽が出て、食用にします）。タラの芽と鹿についてはこんな話もありました。



鹿が親に別れるとき、親鹿に、自分の角が大切と思ったなら、どんなに美味しそうに見えても、タラの芽ばかりは食べるなど、くれぐれも戒められたのを、春芽のふく頃、タラの芽を見ると、いかにも美味しそうなので、こわごわ一口食べて見ると、その味のよさが忘れかねて、次から次と食べて、あの見事な角がぼっくりと落ちたのに、初めて、親の戒めを破ったことを後悔して、非常に悲しんで、その時は声をあげて鳴くと言います。

鹿の玉

鹿の玉と言うものがあって、大変年を老った鹿の胎内にあるもので、この玉を中にして鹿の同類がたくさん集まって遊ぶのだと言いますが、人間の家にこの玉を持っていれば、金銀が自然と集まって来ると言います。また金銀がすっかり集まってしまうと、その玉が、中からだんだん崩れて来るとも言うそうです。八名郡舟着村字乗本の、金原某という家にあるのを実見したことがありましたが、鶏の卵の大きさと、極めて軽いものでした。淡紅色をしていて、草などの繊維を永い間搗き固めたとも言ったもので、表面がつるつると滑らかなものでした。猟師から買い取ったと聞きましたが、二個あって、一個は、まだ完全に玉になり了せないように、半ば崩れたようでした。